

地域に根差しグローバルな視野

東三河のイノベーション企業
対松堂
トップに聞く
田中寛孝社長
田中辰治相談役

合併で海外事業に拍車

経営資源の有効活用と業務効率化

豊川市に本社を構える対松堂(同市新桜町通3丁目、田中寛孝社長)と、同子会社で電子回路実装基板の対松堂精工(同市川花町1丁目、同社長)が1日付で正式合併した。経営資源の有効活用による事業基盤の強化や、業務効率化を図る。対松堂が企業を存続し、化学品事業と電子事業、管理本部の各部門を配置して新体制も固まった。合併後は経営資源を集約し、さらなるグローバル化にも対応する。長年、地域に根差し、世界を見据えた一つの顔を持つ新会社の方向性について、新会社の田中寛孝社長と、田中辰治相談役に聞いた。

顧客紹介し合い新規を増やす

1日付で対松堂が対松堂精工を吸収合併し、連結すると226億円。一方、対松堂精工の売上高は前年比で10.1%減となった。合併の経緯とその狙いなどを教えてくれた。

社長 対松堂の操業は100年の歴史から構想していった。現存する資料で、事業活動をした記録が残っているのは1912(明治45)年というところ。この節目を機に具体化したわけだ。

一方、リーマンショックの影響で、合併を進めるための両社の経営基盤を固める必要もありました。不況の影響を脱して今年の合併となりました。次なる100年への最初の年に第一歩を踏み出すことになりました。

環境に対応した技術

全工場で品質管理統一、共有

合併の狙いは、業務の効率化と両社の経営資源を有効活用することです。まず、両社の総務や経理部門を管理本部として統合。今までの対松堂を化学品事業部、対松堂精工を電子事業部と組織体系を改編しました。

合併後の新「対松堂」は、どの程度の規模になりますか。

社長 6月期の仮決算でグループ連結売上高273億円。うち、国内売上高63億円、電



田中寛孝社長



新生「対松堂」のスタートを喜ぶ寛孝社長(右)と辰治相談役

沿革

- 対松堂■
- 1865年 創業
- 1912年 田中対松堂薬店創立
- 53年 4月 田中対松堂薬局を開設
- 61年 3月 豊川市明野町に化成部品部を開設、工業薬品の販売を始める
- 65年12月 会社設立(資本金300万円)。社名を対松堂に改称
- 72年11月 豊川市桜町通(現本社所在地)に新社屋建築
- 76年 3月 資本金600万円に増額
- 83年 3月 豊橋営業所を開設
- 85年 8月 資本金1200万円に増額
- 88年12月 安城営業所を開設
- 89年10月 資本金を4185万円に増額
- 91年 3月 資本金を9600万円に増額
- 93年11月 優良申告法人に認定
- 99年11月 優良申告法人に認定
- 2000年11月 田中辰治氏が会長、田中寛孝氏が社長に就任
- 02年 5月 次亜塩素酸ソーダ充てん施設を新設
- 03年 6月 ISO14001認証取得
- 13年 7月 対松堂精工を吸収合併。化学品事業部
- 対松堂精工■
- 1979年12月 会社設立(資本金1000万円)
- 旧小坂井町でプリント基板の実装を始める
- 79年11月 本社工場を豊川市川花町(現・対松堂電子事業部)に新築移転
- 82年10月 本社工場第二期増設
- 83年 5月 プリント基板の設計を始める
- 84年 9月 本社工場第三期増設
- 10月 O A機器の組み立てを始める
- 89年10月 資本金3740万円に増額
- 94年 4月 対松堂香港を設立
- 8月 同社の深圳工場を操業開始
- 96年 9月 ISO9002の認証取得
- 98年 8月 田中寛孝氏が社長に就任
- 99年 1月 本社工場第四期増設
- 2月 資本金7000万円に増額
- 3月 対松堂香港の深圳工場新築・移転
- 10月 同工場ISO9002の認証取得
- 2000年 9月 ISO9001の認証取得
- 01年 9月 ISO14001の認証取得
- 02年 9月 ISO9001(2000年度版)の認証取得
- 対松堂電子(蘇州)を設立
- 鉛フリー対応設備を導入
- 03年 6月 対松堂電子(蘇州)の工場を新築移転
- 04年10月 対松堂香港がISO14001認証取得
- 11月 11月 ISO13485の認証取得
- 05年10月 対松堂ベトナムの設立
- 07年 5月 同社の操業開始
- 08年12月 同社がISO9001、および14001の認証取得
- 09年11月 対松堂精密工業(深圳)を設立
- 10年12月 対松堂電子(深圳)がISO/T S16949の認証取得
- 11年 7月 対松堂と合併(電子事業部)
- 13年 7月



田中辰治相談役

治45)年創業の薬種商だ。企業の生産活動が前身です。これを創業年としています。

ただ、起源はもっと古く、江戸時代末期に、江蘇省蘇州で、蘇州とベトナム(よろず)屋に営んでいた薬品も販売する(よろず)屋にさかのぼります。

薬局から化学工業薬品専門商社を創業したのが私の代です。

一取引先の要望で生まれたのが対松堂精工です。それが、私がつくりましょう。

相談役 創業時は高度経済成長期の真っただ中。立ち上げたのが対松堂精工でした。

社長 部品製造への進出は転機でした。さらに、90年代にアメリカを生産拠点の海外移転へとつながったわけですから。

一初めに海外(香港・深圳)に進出するときは悩まれたと思います。どう決断されたのでしょうか。

相談役 海外事業は未知の世界でリスクも大きかったですが、国内市場の縮小も避けられない状況でした。これからは新たな市場を求めて海外生産を増やす時代と考え、社運を賭けての進出となりました。

中国、ベトナムを柱に 将来はアセアン地域に第2拠点

2年前から、各工場間で品質管理を相互に監査する体制を整え、各工場に点在する工場を育成した監査員が、グループ内の工場品質を互いにチェックします。どこでも同じ品質を維持するために新しい「対松堂」の取り組みです。

相談役 国内の話ですが、まず従業員がよければ、各地で幸甚に暮らせることが肝心です。それが地域社会にいい影響を与えていくわけです。そういう形で地域に根差したいです。

一ありがとうございます。

社長 一つは環境に合わせた技術です。鉛を使わないハンダ付けを行う「鉛フリー」と呼ばれるものです。2つ目は、国内にも負けない品質管理力。

基盤の世界は品質で十分勝れる分野です。今は対松堂として、現場生産に伴い、中国やアセアン地域へ進出しました。当社は中国とベトナムに工場があります。

今後はここを成長の柱としたいです。中国を縮小するわけではなく、10年後はアセアン地域と中国の比率を同程度に考えています。将来はアセアン地域に、第2拠点を設立したいです。

一創業した豊川市に本社を置き、グローバルな経営を標榜されています。

社長 地域に密着し、地元のお客さんにかわいがられる会社を目指しています。

電子事業部は海外展開を進めますが、地域に根差しながら、グローバルな会社でありたいです。



海外に4拠点

グループ母体の対松堂は、接着剤や金属表面処理剤、試薬や包装資材など地元メーカーが工場の製造工程で使う「副資材」を扱う薬品商社だ。

70年代に入り、取引先の複写機メーカーが電子回路実装基板の協力工場を求め、田中辰治社長(当時)が決断。町工場を買い取り74年に対松堂精工を設立した。現在は自動車や医療機器などの部品まで広がった。

さらに、メーカーの中国進出に伴い94年に対松堂香港が広東省深圳に工場を設立。その後は蘇州、ベトナムにも進出した。

グループ全体で愛知県下に本社を含め4拠点、海外でも商社としての対松堂香港を含め4拠点を構え、地域に根差すグローバル企業に成長した。